

日本とベトナムにおける社会関係資本と市民社会

村上 俊介

専修大学社会科学研究所所長の村上と申します。

本日のオープニングセッションで報告させていただけることを、大変ありがたく思います。何よりベトナム社会科学の先生方に感謝申し上げます。とはいえ、私はこのセッションで先生方がご報告されたような「日本とベトナムの関係」について大きな視野から何か報告できるような立場にありません。

そこで、日本とベトナムにおける研究協力の可能性について、少し述べさせていただきたいと思います。専修大学は 2009 年度から 5 年間、文部科学省から研究助成金を得た東アジアにおける社会関係資本研究プロジェクトを立ち上げました。正式名称は「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築－東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民社会の観点から－」というもので、近年注目を浴びている Social Capital 概念が、アジアにおいてどのような形態で存在し、それが社会発展にいかなる役割を果たしうるか、これを探求することを目的としたプロジェクトです。

このプロジェクトはコミュニティ、セキュリティ、市民社会の 3 つのグループで構成され、私は、その中の市民社会グループのまとめ役として、仲間と一緒に活動してきました。われわれのグループは、東南アジア（ベトナム、ラオス、カンボジア）における社会関係資本の現状と日本を比較し、その後の東アジアの研究のさきがけにしようと考えました。そのグループのメンバーは本日、皆こちらに、出席しています。ベトナム調査に関しては、2010 年と 2011 年にベトナム社会科学の社会学研究所に調査を委託し、ナンディン省の都市部と農村部を調査対象地として、その有能なスタッフのご協力によって、報告書を提出してもらうことができました。この調査の、特に社会的信頼に関する回答結果を今回の報告のきっかけにしたいと思います。

この社会関係資本に関するアンケート調査は、その後の東アジア諸国の調査に比べて規模が小さく、従ってサンプル数も少なく、その点でベトナム社会科学の社会学研究所の方々からは、何度も不満と批判の声をいただきました。事実、小規模調査によって、一般的なことを語ることはできません。しかし、小さい規模でもラオス、カンボジアとの比較をすることで、それなりの興味深い結果を得ることができたと思っております（村上 2013）。またプロジェクト本体で、その後中国や台湾においてより規模の大きな同様の調査を行なう呼び水になったことも、自己評価できていると思っています。本日はベトナムを中心に、その結果を一部分だけ紹介します。

なお比較の表では、ラオス、カンボジアも併記しておきます。

調査対象地はナンディン省ナンディン市、およびナンディン省ザオタン村です。社会的信頼度に関しては、農村部、都市部ともに信頼度はおおむね社会的信頼度は高い。ただし農村部で「ほとんどの人は信頼できる」という者の比率が、都市部に比べて明らかに高いという違いがあります。すなわち、「ほとんどの人は信頼できる」と答える者の比率が都市部では9.0%なのに対し、農村部では35.0%です。「かなりの人を信頼できる」と答える者の比率が都市部で54.0%、農村部では40.0%。「何人かは信頼できる」と答える者の比率が都市部で33.0%、農村部で24.0%でした。

表 1

Q1 「あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか。」

	ベトナム 都市部	ベトナム 農村部	カンボジア 都市部	カンボジア 農村部	ラオス 都市部	ラオス 農村部
信頼度	2010 年調査	2011 年調査	2011 年調査	2011 年調査	2010 年調査	2011 年調査
	(100 Samples)	(100 Samples)	(200 Samples)	(200 Samples)	(116 Samples)	(116 Samples)
ほとんどの人は信頼できる	9.0	35.0	6.0	6.0	26.7	15.5
かなりの人を信頼できる	54.0	40.0	9.5	18.0	37.1	40.9
何人かは信頼できる	33.0	24.0	29.5	41.5	34.5	37.3
信頼できる人は少ない	4.0	1.0	53.5	30.5	1.7	4.5
ほとんどの人信頼できない	0.0	0.0	1.5	4.0	0.0	1.8

日本の 2002 年内閣府調査（内閣府委託調査）では、「ほとんどの人は信頼できる」（1）から、「両者の中間」（5）を真ん中において、「注意するに越したことはない」（9）までを 10 段階に分けて質問しております。その結果、「両者の中間」（5）32.2%（Web 版 27.1%）を真ん中において、濃淡はあるものの一般的に「信頼できる」（1~4）と答える者は 34.3%（Web 版 34.1%）、「両者の中間」（5）よりも信頼度のレベルが低い者（6~9）は 29.9%（Web 版 37.9%）である。とりわけ「注意するに越したことはない」（レベル 9）と答える者の比率が 15.6%（Web 版 18.0%）と高い。「両者の中間」と答える者の比率が最も高く、「注意するに越したことはない」と答える者が次に多い。なお、Web 版の回答結果は、直接回答の結果よりも、回答者がより若い世代のものとご理解下さい。どちらの結果を見ても、ベトナムでの調査に比べて、社会的信頼度という点では日本は高くはないと言えます。

表 2 H14 内閣府委託調査

Q. 1-(1) 「あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか。」

		郵送版	Web 版
ほとんどの人は信頼できる	1	6.2	3.2
	2	4.9	4.3
	3	13.7	15.1
	4	9.5	11.5
両者の中間	5	32.2	27.1
	6	6.4	8.8
	7	5.5	8.3
	8	2.4	2.8
注意するに越したことはない	9	15.6	18.0
分からない	10	1.4	1.1

平成 14 年度 内閣府委託調査「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」

平成 15 年、内閣府国民生活局市民活動促進課

<http://www.npo-homepage.go.jp/data/report9.html>

事実、World Value Survey の調査結果では、社会的信頼度については 100 カ国中ベトナムは 8 位であり、日本は 18 位です (Shttp://www.jdsurvey.net/jds/jdsurveyActualidad.jsp?Idioma=I&Seccion Texto=0404&NOID=104)。とはいえ、こうした順位のための平板な比較では、この社会的信頼度とはどういう性質のものであるか、それは分かりません。比較という視点では、この社会的信頼の性質、ひいては社会関係資本の特性こそが問題となります。そのためにわれわれはアンケートで「日常の問題・心配ごとで頼りにする人・団体」、「大規模災害・事件で頼りにする人・団体」を尋ねる質問を用意しておきました。その結果、ベトナムでは「家族」、「親戚」への信頼度が圧倒的に高く、公的な社会諸制度・諸団体への信頼度は、それほど高くない。表 3-1 をご覧ください。「日常の問題・心配ごと」で「家族」を「大いに頼りにする」者の比率に注目すると、ベトナム、カンボジアは都市部・農村部を問わず 90%を超えています。「親戚」と答える者の比率も、いずれも高い。ベトナムの場合、各種公的な社会諸制度・諸団体に対して「ある程度頼りにする」者は一定の比率を獲得していますが、「あまり頼りにできない」と「全く頼りにできない」と答える者も同じように一定の比率を獲得しています。一方、カンボジアの場合、各種公的な諸組織・諸団体に対して「大いに頼りにする」者が非常に少なく、「ある程度頼りにする」という者は、「市役所・町役場」、「学校・病院」、「消防・警察」あるいは「近所の人々」に対して一定の比率で分布していますが、政党やボランティアあるいは宗教組織などを頼りにする者は非常に少ない。なお、ラオスの場合、「家族」、「親戚」を「大いに頼りにする」者は、もちろん多いですが、ベトナムやカンボジアほどではなく、その他の諸組織・団体を「大いに頼りにする」者

の比率の方は、むしろ高い。これはラオス都市部の調査地区に公務員が多かったことが一つの原因と考えられますが、農村部でも同じ傾向を示しているので、なぜそうになっているのか十分な説明はできません。(表 3-1)

「大規模災害・事件」の場合、「家族」・「親戚」を「大いに頼りにする」者は、やはり圧倒的に多いけれども、それだけではなく公的な社会諸制度・諸団体への信頼度も、ある程度高まっています。ただし、「ボランティア・NPO・市民団体」、「宗教組織」などは、あまり頼りにされていない。この点は、ベトナム社会学研究所も報告書で指摘されていました。カンボジアの比率分布を見ますと、「日常的な問題・心配ごと」に対する比率分布とはほぼ同様ですし、またラオスも同様です。

日常的な問題や心配ごとに関しては、家族、親戚、近所の人々といった、直接日常で交流する範囲の人々を頼りにする者が多く、大規模災害や事件になると、それに加えて役所や病院あるいは警察・消防などを頼りにする者が比較的増えるというのが全体の傾向でしょう。この点では、ベトナムが最も典型的な（あるいは自然な）傾向を示していると言えましょう。しかし総じて言えることは、日常的な問題であれ、非日常的な災害であれ、何よりも家族・親戚にその信頼が凝縮しているというのが三カ国の特徴です。その中で、とりわけカンボジアの場合などは、あのポル・ポト支配の時代を経たことによるのでしょうか、「家族」以外はほとんど信頼しないという特徴が、極端なカタチで現れていました。(表 3-2)

これに対して、日本の場合は、「日常の問題・心配ごと」に対して、「家族」、「親戚」への信頼度がベトナムほどには高くありません。同時に「まったく頼りにできない」と答える者の比率も、ベトナムほど高くありません。「どちらともいえない」という者の比率が比較的高いので、鮮明な比較が難しいのですが、日本とベトナムを比較した場合に、日本の方が公的な諸制度や諸団体に対する信頼度が高いとは、はっきりとは言い切れないとしても、ある程度高いとは言えるかと思います。なお日本の調査では「大規模災害・事件」に際しての信頼度は尋ねていないので、比較できませんが、1995 年の阪神淡路大震災、2011 年の東日本大震災を経ている日本では、公的諸制度・諸団体への信頼度は高まっていると推測できます。(表 3-3)

ところで、これはベトナム社会学研究所の指摘でもあるのですが、ベトナムでは社会的信頼が家族・親族あるいはコミュニティの内部からより広い外部への広がりが期待されています。社

表 3-1 日常の問題・心配で頼りにするもの（ベトナム、カンボジア）

Q21「日常生活の問題や心配ごと（失業・収入の少なさ、病気、食糧不足、水へのアクセス等）について、あなたはどのような人または組織を頼りにしますか。」

	ベトナム・ナンディン市ヴィ・クウェン地区					ベトナム・ザオタン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）
1) 市役所・町村役場	18.0	26.0	24.0	31.0	1.0	25.0	28.0	28.0	17.0	2.0
2) 学校・病院	18.0	33.0	19.0	28.0	2.0	30.0	20.0	22.0	24.0	4.0
3) 警察・消防組織	10.0	22.0	20.0	39.0	9.0	19.0	22.0	20.0	35.0	4.0
4) 軍	12.0	24.0	13.0	34.0	17.0	23.0	19.0	17.0	35.0	6.0
5) 政党・政治家	18.0	28.0	7.0	31.0	16.0	33.0	21.0	16.0	27.0	3.0
6) 近隣地域の団体	22.0	43.0	9.0	11.0	15.0	30.0	32.0	20.0	15.0	3.0
7) ボランティア・NPO・市民団体	4.0	23.0	9.0	36.0	28.0	21.0	30.0	17.0	20.0	12.0
8) 寺・教会などの宗教組織	4.0	18.0	19.0	45.0	14.0	22.0	19.0	18.0	35.0	6.0
9) 職場の雇い主	8.0	30.0	16.0	22.0	24.0	6.0	8.0	6.0	11.0	69.0
10) 職場の同僚	18.0	38.0	9.0	16.0	19.0	7.0	12.0	3.0	7.0	71.0
11) 近所の人々	21.0	67.0	7.0	4.0	1.0	40.0	45.0	13.0	2.0	0.0
12) 家族	92.0	6.0	0.0	2.0	*	91.0	5.0	2.0	2.0	0.0
13) 親戚	65.0	26.0	3.0	5.0	1.0	72.0	21.0	6.0	1.0	0.0
14) 友人・知人	35.0	59.0	5.0	0.0	1.0	47.0	46.0	3.0	4.0	0.0

	カンボジア・シェムリアップ市					カンボジア・ブレイベン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）
1) 市役所・町村役場	3.5	29.5	23.0	41.5	2.5	7.5	47.0	28.5	17.0	0.0
2) 学校・病院	8.0	48.0	23.0	21.0	0.0	17.5	57.0	19.0	6.5	0.0
3-1) 消防組織	0.5	37.0	22.0	18.0	22.5					
3-2) 警察	9.0	58.0	21.0	12.0	0.0	11.5	49.0	26.5	10.5	2.5
4) 軍	0.5	0.5	1.5	1.0	96.5	1.0	2.0	3.0	3.5	90.5
5) 政党・政治家	0.5	3.5	10.0	54.5	31.5	2.5	11.0	15.5	44.5	26.5
6) 近隣地域の団体	0.5	11.5	26.0	29.5	32.5	8.0	29.5	27.5	24.5	10.5
7) ボランティア・NPO・市民団体	2.0	11.0	19.5	33.0	34.5	3.5	14.5	25.5	27.0	29.5
8) 寺・教会などの宗教組織	1.5	39.0	23.5	14.5	21.5	14.0	47.0	19.0	12.5	7.5
9) 職場の雇い主	2.0	8.0	6.5	5.0	78.5	0.0	2.0	1.5	1.0	95.5
10) 職場の同僚	4.0	18.0	5.5	5.0	67.5	0.0	5.5	2.5	2.0	90.0
11) 近所の人々	6.0	61.5	27.5	3.5	1.5	11.0	70.0	18.5	0.5	0.0
12) 家族	92.5	7.0	0.5	0.0	0.0	96.0	3.5	0.0	0.0	0.5
13) 親戚	55.0	35.5	7.0	1.5	1.0	62.0	33.5	4.5	0.0	0.0
14) 友人・知人	6.5	62.0	20.0	9.0	2.5	7.5	68.0	20.5	4.0	0.0

	ラオス・ビエンチャン市					ラオス・ナーカーン村・ドーン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない（or無回答）
1) 市役所・町村役場	64.7	27.6	4.3	3.4	*	67.0	26.1	5.2	1.7	*
2) 学校・病院	38.6	51.5	6.9	3.0	*	34.5	47.6	11.9	6.0	*
3) 警察・消防組織	20.2	54.4	21.1	4.1	*	20.2	45.6	27.2	7.0	*
4) 軍	24.6	49.1	15.8	10.5	*	26.5	42.7	24.5	7.3	*
5) 政党・政治家	27.0	39.1	18.3	15.7	*	14.0	46.5	18.4	21.1	*
6) 近隣地域の団体	27.8	46.1	16.5	9.6	*	15.5	50.0	13.8	20.7	*
7) ボランティア・NPO・市民団体	18.8	47.3	19.6	14.3	*	6.9	54.3	18.1	20.7	*
8) 寺・教会などの宗教組織	21.4	45.5	23.2	9.8	*	20.9	38.3	25.2	15.7	*
9) 職場の雇い主	15.1	35.8	30.2	18.9	*	1.8	31.2	33.0	33.9	*
10) 職場の同僚	21.3	57.4	12.0	9.3	*	11.8	57.3	23.6	7.3	*
11) 近所の人々	31.6	53.5	10.5	4.4	*	36.0	50.0	11.4	2.6	*
12) 家族	79.8	16.7	1.8	1.8	*	67.2	29.3	1.7	1.7	*
13) 親戚	68.7	27.8	1.7	1.7	*	69.8	27.6	1.7	0.9	*
14) 友人・知人	43.4	46.9	5.3	4.4	*	31.0	48.3	16.4	4.3	*

表 3-2 大規模災害・事件で頼りにするもの（ベトナム、カンボジア）

Q25「あなたがお住まいの地域において、大規模な自然災害や事件が発生した場合、あなたはどのような人または組織を頼りにしますか。

	ベトナム・ナンディン市ヴィ・クウェン地区					ベトナム・ザオタン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)
1) 市役所・町村役場	48.0	30.0	17.0	5.0	0.0	60.0	22.0	12.0	5.0	1.0
2) 学校・病院	23.0	39.0	15.0	23.0	0.0	43.0	27.0	15.0	12.0	3.0
3) 警察・消防組織	33.0	32.0	19.0	13.0	3.0	43.0	22.0	17.0	15.0	3.0
4) 軍	37.0	32.0	10.0	16.0	5.0	46.0	26.0	12.0	13.0	3.0
5) 政党・政治家	34.0	36.0	10.0	13.0	7.0	53.0	25.0	15.0	6.0	1.0
6) 近隣地域の団体	29.0	44.0	10.0	5.0	12.0	45.0	32.0	16.0	5.0	2.0
7) ボランティア・NPO・市民団体	5.0	35.0	12.0	26.0	22.0	35.0	28.0	16.0	9.0	12.0
8) 寺・教会などの宗教組織	4.0	18.0	23.0	39.0	16.0	28.0	26.0	10.0	31.0	5.0
9) 職場の雇い主	6.0	30.0	18.0	16.0	30.0	8.0	7.0	5.0	13.0	67.0
10) 職場の同僚	16.0	35.0	11.0	12.0	26.0	11.0	4.0	7.0	10.0	68.0
11) 近所の人々	32.0	62.0	5.0	1.0	0.0	49.0	39.0	7.0	5.0	0.0
12) 家族	93.0	5.0	1.0	1.0	0.0	88.0	10.0	2.0	0.0	0.0
13) 親戚	71.0	25.0	1.0	3.0	0.0	73.0	21.0	4.0	2.0	0.0
14) 友人・知人	44.0	50.0	5.0	1.0	0.0	52.0	39.0	5.0	4.0	0.0

	カンボジア・シェムリアップ市					カンボジア・ブレイベン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)
1) 市役所・町村役場	3.0	28.0	30.5	38.0	0.5	4.5	47.0	29.5	19.0	0.0
2) 学校・病院	6.5	46.0	31.5	16.0	0.0	9.0	58.5	27.0	5.0	0.5
3-1) 消防組織	4.5	28.5	21.5	23.5	22.0	0.0	0.0	0.5	0.5	99.0
3-2) 警察	5.5	45.5	25.5	21.5	2.0	2.5	44.5	28.5	17.5	7.0
4) 軍	0.5	2.0	1.5	2.0	94.0	0.0	2.0	2.0	3.0	93.0
5) 政党・政治家	0.5	4.5	9.0	55.5	30.5	0.5	15.5	20.5	40.5	23.0
6) 近隣地域の団体	0.0	12.0	25.0	32.5	30.5	5.5	33.0	31.0	20.5	10.0
7) ボランティア・NPO・市民団体	25.0	14.0	24.0	33.0	26.5	2.0	21.5	29.0	23.0	24.5
8) 寺・教会などの宗教組織	1.5	57.0	19.0	5.5	17.0	17.0	54.5	18.0	4.5	6.0
9) 職場の雇い主	2.5	6.5	7.0	3.5	80.5	0.0	1.0	2.5	3.5	93.0
10) 職場の同僚	3.5	14.0	7.5	4.0	71.0	0.5	2.5	5.0	2.5	89.5
11) 近所の人々	4.5	67.0	21.5	6.0	1.0	9.5	72.0	18.0	0.0	0.5
12) 家族	91.5	7.5	0.5	0.0	0.5	90.0	9.5	0.0	0.0	0.5
13) 親戚	55.0	35.0	7.0	2.0	1.0	60.5	36.0	3.5	0.0	0.0
14) 友人・知人	7.0	61.0	20.0	9.0	3.0	8.0	67.5	22.5	1.0	0.0

	ラオス・ビエンチャン市					ラオス・ナーカーン村・ドーン村				
	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)	大いに頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	分からない (or無回答)
1) 市役所・町村役場	73.9	16.5	5.2	4.3	*	73.9	21.7	4.3	0.0	*
2) 学校・病院	39.1	49.6	6.1	5.2	*	37.9	44.0	12.1	6.0	*
3) 警察・消防組織	36.5	40.9	17.4	5.2	*	37.4	33.0	27.0	2.6	*
4) 軍	31.3	46.1	10.4	12.2	*	33.6	33.6	26.4	4.3	*
5) 政党・政治家	23.4	40.2	17.8	18.7	*	22.8	38.6	23.8	14.9	*
6) 近隣地域の団体	35.7	42.6	12.2	9.6	*	20.7	49.1	18.1	12.1	*
7) ボランティア・NPO・市民団体	20.7	51.7	17.2	10.3	*	15.0	50.4	18.6	15.9	*
8) 寺・教会などの宗教組織	33.0	37.4	13.9	15.7	*	25.9	30.2	30.2	13.8	*
9) 職場の雇い主	11.0	37.0	23.1	28.7	*	3.7	31.5	38.9	25.9	*
10) 職場の同僚	23.0	51.3	13.3	12.4	*	16.8	43.4	26.5	13.3	*
11) 近所の人々	37.1	45.7	12.1	5.2	*	43.5	40.0	14.8	1.7	*
12) 家族	77.4	17.4	2.6	2.6	*	73.3	21.6	5.2	0.0	*
13) 親戚	71.6	25.0	1.7	1.7	*	71.6	25.0	3.4	0.0	*
14) 友人・知人	48.3	39.7	6.0	6.0	*	33.3	44.7	16.7	5.3	*

表 3-3 H.14 内閣府委託調査 日常生活の問題・心配事での頼り

問い) 日常生活の問題や心配ごと(自身や家族の健康、子育て、教育、家計・しごと・就職、家庭内人間関係、近隣の人間関係、住環境、地域での非行や犯罪の増加など)について、あなたは、相談したり頼ったりする人や組織がありますか。)

	郵送版 (N=1,589)					WEB版 (N=2,000)				
	大いに頼りになる	ある程度頼りになる	どちらともいえない	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	大いに頼りになる	ある程度頼りになる	どちらともいえない	あまり頼りにできない	全く頼りにできない
1) 市役所・町村役場など	3.4	31.0	34.5	15.2	16.0	0.6	16.4	37.5	29.6	16.0
2) 学校・病院	8.2	49.1	23.3	8.0	11.4	2.8	33.9	32.0	17.8	13.6
3) 警察・交番	3.8	34.4	31.1	15.4	15.4	1.4	27.6	32.5	23.5	15.2
4) 自治会等の地縁団体	2.3	21.9	33.8	17.4	24.6	0.8	13.5	34.0	31.0	20.8
5) ボランティア・NPO・市民団体	1.6	19.8	30.4	16.0	32.2	1.1	11.1	20.6	30.2	28.1
6) 勤務先	5.7	30.0	30.4	14.7	19.2	2.2	21.8	29.7	25.0	21.5
11) 職場の同僚	7.8	35.1	26.3	11.7	19.2	3.8	25.4	25.8	20.2	24.0
7) 近所の人々	6.2	36.9	28.4	13.3	15.2	2.6	23.3	32.4	25.1	16.8
8) 家族	52.3	37.8	6.5	1.2	2.1	39.4	41.2	11.1	4.0	4.5
9) 親戚	20.1	43.7	22.9	6.3	7.0	10.4	39.1	25.4	15.3	9.8
10) 友人・知人	20.6	53.1	15.3	3.8	7.2	15.4	50.4	18.8	6.2	9.2

会的関係が、家族・親族・小さなコミュニティを越えて広がる時、市民社会の形成が問題になります。これは持続的かつ急速に経済成長をしている国々にとって必ず課題となる問題だろうと私は思います。事実、中国は現在、日本の市民社会論に非常に大きな関心を示しています。私は2年前に、1970年代に日本の市民社会論者として多くの読者を得た私の恩師である望月清司先生とともに清華大学と南京大学に招待されて、日本における市民社会論について報告をしました (<http://philo.nju.edu.cn/show.php?id=365>)。

では、その市民社会とは何かということになります。市民社会という場合、近年では NPO や NGO などに象徴されるボランティア型の団体形成と同一視されることが多い。そしてさらに社会的信頼や社会的規範がアプリオリに提起されて、自覚した市民によってコントロールされた社会として認識されることが多い。

しかし、私の意見ですが、市民社会とは、経済成長と様々な近代化のプロセスによって、狭い社会関係を越えて広がりを持つようになった状況そのもの、つまり「知らない人たち」同士が交換・分業によって事実上つながり、それを基礎に否応なく一つの社会を形成せざるを得ない状況そのもの、それが市民社会であると思います。だから、経済過程から切り離されたところで、NPO や NGO などのボランティア型団体形成と、アプリオリな社会的規範を組み合わせた議論は十分なものではないと思います。何らの根拠もなく提起される連帯や公共心といった社会的規範とは、そのつど道徳家やアジテーターが自由に、あるいは適当に、作り出せますし、また自覚した市民を主体にした社会と言っても、その自覚が形成される根拠が明らかにならなければ、やはり思いつきの域を出ません。それらの議論の根拠となるのが、経済過程における交換・分業の展開であろうと私は考えます。NPO や NGO などのボランティア型市民団体は、市民社会の重要な指標であることを私は断じて否定しませんが、それは、交換・分業の広がった状況を

表す現象形態として捉えるべきだと思います。経済学と社会学あるいはその他の社会科学諸分野の協働が成り立つゆえんであります（村上 2011-1、同 2011-2）。

もっとも市民社会を展望するとき、伝統的社会関係は完全にはなくなるわけではないでしょう。それはその国独自の個性を形作ることでしょうが、繰り返しますけれども、経済発展に伴い、基本的に社会はむしろ「知らない人たち」によって構成されざるをえなくなる。そして、それが信頼に裏打ちされた調和ある社会となれば素晴らしいのですが、現実にはなかなかそうはならない。日本では、2 年前の東日本大震災で多くの市民がボランティアで被災地に入った。とはいえ、日常的にはどうか。実感として例えばドイツの今年 6 月のエルベ川洪水で、どの都市でも多くの市民・学生たちが自分たちの街を洪水から守るために、広場にあふれかえるほど自発的に参加した状況などを見ると、まだ日本もその意味での市民社会の成熟という点では、ヨーロッパほど活性化しているとは思えませんし、政治や経済に現実的な影響を与えているとは思えません。日本もそこに至るには、まだ遠い道のりだと思います。ではどうすればいいのか、それを探るのが社会科学の課題だろうと思います。ただし、少なくとも戦後の高度経済成長とその後のグローバル化によって、日本は明らかに伝統的社会とそれを基礎とする社会関係や意識によってではなく、「知らない人たち」の関係を基礎とした社会制度をどのように構築していくか、あるいはどのように社会像を描くのか、これが課題として模索されてきていると思います。

私たちの小規模な研究交流の具体的なお話をしてきましたが、今後はさらにさまざまなチャンネルで、われわれは戦後日本が経てきた成功と不首尾の経験を、お伝えしていきたいと思っております。そして逆に、われわれは現在のベトナムがわれわれに示してくれている活力の源を学問的に学んでいきたい。経済交流の発展と同時に、学問的交流が今後、さらに豊かになることを願ってやみません。

参考文献

- ・村上俊介 2011-1 「市民社会論の今日的論点－経済過程からの遊離か、それへの投錨か－」、『専修経済学論集』第 108 号。
- ・－2011-2 「市民社会における規範形成の論理－社会関係資本の個人財アプローチと集合財アプローチの対比を通じて－」、『社会関係資本研究論集』第 2 号
- ・－2013 「ベトナム、カンボジア、ラオスにおける社会関係資本」、『社会関係資本研究論集』第 4 号。
- ・内閣府委託調査『平成 14 年度 内閣府委託調査 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』（平成 15 年、内閣府国民生活局、委託先：日本総合研究所）